

くり 町民会議

今後は外部の専門家を招き
まちの課題など協議する方向へ



黒坂鏡山城の保護活動をスクリーンに映しながら解説

これからのまちのあり方や
まちづくりなどについて話し合う、
第9回日野町まちづくり町民会議（松本豊文委員長）が
5月22日、町役場で開かれ、
委員15人が出席しました。

会議のあり方を話し合う
事前検討会を設置

会議では、はじめに黒坂鏡
山城下を知ろう会（牧智也会
長）が取り組んでいる黒坂鏡
山城跡の保護活動や黒坂の歴
史について、同会の事務局で
もある西古尚史委員が説明し、
黒坂地区を拠点とした文化・
観光面からのまちづくりにつ
いて理解を深めました。

今回の会議では、全体会
中で、「今後の会議の方向性
について事前に話し合うた
めの会が必要」との意見があ
りました。話し合いの結果、委
員長、副委員長のほか、A・
Cの各班から委員を選び、計
6人で事前検討会を開くこと

にしました。

事前検討会は、町民会議が
開かれる1か月前に開き、会
議のあり方や、出席を要望す
る外部団体・専門家について
検討します。

全体会のあと、A・Cの各
班で協議を行いました。主な
内容は次のとおりです。

A班「A班では高齢化問題と
財政再建について、任期の2
年間をかけてまとめたい。高
齢化問題は解決しにくい
が、みんなの問題として取り上
げていきたい。

B班「まちの高齢者の皆さん
がどうしてほしいのか、その
気持ちを聞かせてもらいたい。
現状が聞ける人を老人会にお
願います。

C班「ブランド米に取り組ん
でいる講師を呼んでみたい。
まずどうやって農業を守るか
が第一。6月の視察（次ペー
ジ参照）を経て、なせ日野町
では集落営農ができないかを
考えたい。

日野町まちづくり

農業生産法人を視察

まちの集落営農のヒントに

まちづくり委員のほか
農業委員なども参加

まちづくり町民会議では、
まちの大きな課題である農業
の高齢化や後継者不足などの
問題解決について学ぶため、
6月8日に、農業先進地視察
を行いました。

この視察には、まちづくり
会議委員9人のほか、町農業
委員や町関係者など計26人が
参加、広島県庄原市西城町の
農業生産法人「日南」を訪問
し、その活動について、代表
の川崎博之さん、事務局の木



田園地帯が広がる西城町日南地区

戸一喜さんに話を聞きました。
集落の農地を集積し
共同で管理作業を

「日南」は、西城町日南地区
の9世帯すべてが加入してい
る集落営農組織。個人では限
界がある農地管理を地域で協
力して行うため、平成14年に
農業生産法人（会社）を設立
し、地区内の各農家から作付
面積合計約6ヘクタールの農地を借り
受けて、米作りを中心に先進
的な農業を行っています。
また、転作田ではトウモロ
コシを栽培して収入を増やし、
豊かな村づくりに取り組んで
います。

借り受けた農地の管理は会
員で分担して行い、作業賃金
を支払うほか、農地の所有者
へも小作料を支払い、農業用
の機械も共同で購入していま
す。また、地域での農地保全
活動へ支払われる中山間地域
等直接支払交付金も大きな収
入源になっているそうです。
法人設立により、それまで
ボランティアで農作業を手

伝っていたものが収入が入る
ようになったり、機械を共同
で買ったことで生産コストも
下げることができ、農家も喜
んでいるとのことでした。

共通の悩みを意見交換

しかし、問題は後継者不足
について。日野町と同じく、
日南地区でも高齢化が進んで
おり、今の法人の形がいつま
で続かに頭を痛めていると
いうことです。

日野町の参加者からは、
「イノシシ対策はどうしてい
るか」「人づくり・後継者づく

魅力ある農業を

目指したい

まちづくり町民会議委員

松本 洋一さん（根雨）



りをどう取り組んでいるか」
などの質問が出され、同じ中
山間地域の住民どうし、お互
いの問題点や良かった点など
を話し合いました。参加者に
とって、農業の活性化を通じ
たまちづくりを考える機会と
なりました。



日南地区の集会所で話を聞きました

「この視察で、日野町と同じ
問題を抱える農家の声を直接
聞くことができ、とてもプラ
スになったと思います。この
成果を地域に持ち帰って、集
落営農について相談したいで
す。農業の後継者問題はそこ
まで限界が来ています。地域
みんなで協力し、魅力ある農
業ができれば、後継者となる
若者にも興味を持ってもらえ
ると思いますね」